


## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者やその家族だけではなく、地域の方・ケアスタッフ・全ての人に感謝の気持ちを持ち、表面上だけでなく心に届くような声掛け・ケアに心がけ、毎日向上していかなければならないという理念になっていて、地域の中の一員として自分らしく生活を送れるような支援を心掛けることも含まれていると考えている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、実践した事やこれから行なおうとする事に対して、理念を念頭に置きながらケアをしていく事を話したり、事あるごとに理念の解説や実践へのつながりについて話し合っている。(毎日、理念やその解説の復唱はもとより、ミーティングでも確認をし合っている)	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域行事やホーム行事参加時・家族の面会時に話したり、広報作成時に運営理念を取り込んでいる。	定期的な運営推進会議の開催や認知症を有している方についての理解の促進につながるような内容の実施。家族会の開催。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	四季折々の花などを楽しめるようにしたり、暖かい日は網戸にしてあり、誰でも気軽に入れる雰囲気作りに努めている。また、近所への散歩や買物など実施し、日常的に地域の方との接点を持てるように心掛けている。散歩時などは気軽に近所の方や地域の小中学生などと挨拶や世間話を行っている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元小・中学校の運動会や地域のお祭りなどに参加をするなどし地域の方々と交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方や家族の方からの相談があれば、いつでも応じるようにしている。また、見学などは支障がない限り応じていて、その際にアドバイスのことを伝えたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の意義や目的の確認、ミーティング時などで項目をみんなで考え自己評価を実施している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の報告を行うと共に会議で出た意見に対しては、職員全員と共有し改善策等を検討・実施している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に、色々なことを相談したり話し合えるようにしている。頂いた助言などに対しては真摯に受け止め、職員全員と共有し話し合うようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	人権擁護についてミーティングで話し合ったり、外部研修に参加しそれを職員が共有できるように報告してもらったりしている。また、その様な制度利用が必要と思われる方に対しては、家族の方などに制度についての話をさせてもらっている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修や外部研修参加だけでなく、日々の支援の中で虐待に繋がる危険がある部分の改善や話し合いを日々行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>その場で説明するだけでなく、疑問があったらいつでも受け付けることを伝えている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>支援では傾聴に心がけ、話しやすい環境に努めている。また、隠れたニーズなどに対しても気づけるように話し合っている。得られた意見などに対しては改善策など話し合い実施している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な広報の配布や面会時に本人の様子など伝えている。また、必要に応じて電話連絡など行い対応をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱の設置を行うと共に、いつでも受け付けることを伝えているが、認知症ケアでの職員のストレス回避の為、窓口を設けている。(所長・介護支援専門員・介護主任・各ユニットリーダー)</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見や提案があれば随時連絡をしてもらっている。また、毎日の引継ぎ時などでも話し合えるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて実施している。また、必要な時は全職員で話し合いを行ったりその事への同意を得ている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニット間を行き来きすることによって、馴染みの関係ができていて、利用者へのダメージは少ないと判断している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加やホーム内研修を実施している他、日常でのケアに対する疑問や不安点について話し合い日々向上に努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加をするなどしている。相互訪問などの話があるが実施はできていない。		他の事業所と交流を深められるような活動(見学会など)を検討していく。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月の休日の希望をとったり、職場内交流を定期的実施したりしている。また、ストレスなど感じた時は、いつでも話せるような雰囲気作りに努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の状況に合わせ、激励したり、日常的に本人の意欲の向上が図れるように話したり、アドバイスをするように努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が納得できるまで説明などすることを常に努力している。また、面会時以外にも、電話などでも受け付けることを説明し、実施している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が納得できるまで説明をすることなどを常に努力している。また、面会時以外にも、電話などでも受け付けることを説明し、実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて対応をしている。(入所が難しい場合なども、できる限り相談に応じ、助言をしている)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常時、見学の実施や、本格的なサービス開始前に体験入所などの実施を行い、利用者やその家族・職員の状況を見られるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「生活の主体は利用者にある」という事を常日頃から話し合い実施に結び付けている。本人のできること・できないことを日々観察し、できることは行ってもらおうという事に心掛けている。(食器洗いや洗濯物・清掃・食事作りなどを一緒に行っている)		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事の参加や、定期的な面会・外出などのお願いを行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とのつながりが途絶えないように、定期的に連絡を取り関係が継続できるように働きかけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人の方の面会を依頼したりしている。また、本人が行きたいと言う場所には定期的に行けるようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に見守りや会話に職員が入り対応をしている。また、輪には入りづらい方などには、声掛け・誘導・他の方との橋渡しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続が必要な場合は対応を行うが、現状では実例がない。また、常にオープンな場としてホームがあるので来所などの対応も可能。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、本人からの要望を受け入れ迅速に対応することに努めている。また、本人の状況把握を充分に行い代弁的な機能が果たせるようにしている。検討時は職員全員で話し合いを行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの他に生活歴シートを使用したり、本人や家族の方から情報を得た場合には記録し、共有できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的に職員から情報提供シートを書いてもらったり、日々の観察を行い、いつでも話し合えるように努めている。また、ケア記録の充実とPCを使い申し送りの共有化を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスだけでなく、日々の業務上での気づきや意見を反映して計画を立てている。また、本人や家族からの何げないことから出てくる意見などを反映できるようにしている。		今後も、本人・家族・関係職員が綿密に話し合える機会の増進を図っていく。(家族会や運営推進会議の参加や・面会の依頼など実施していく)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月間で見直しをしている。また、3ヶ月に1回はモニタリングを実施すると共に、日々の業務でも確認を行っている。状況が変化しプランの見直しが必要な場合には迅速に対応できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察を注意深く行い、個別記録に記入している。また、各職員が確認した所までサインをするなどしている。重要な点についてはPCにて申し送りを入力し、ユニット間でも共有しあえるようにしている。出てきた情報に関しては、その都度確認を行い、プランに反映できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の補助や本人の要望により一緒に自宅を見に行ったりするなど、柔軟に対応をしている。また、ユニット間や併設のデイサービスの利用者の方との交流も行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察などに外出傾向の強い方の特徴を伝えたり、小学生の体験授業で来所してもらったりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な場合は、家族や関係機関と協力して、情報提供や話し合いを行えるように努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターと連携を取っている。 (権利擁護などの相談を行ったりしている)		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があった時は対応をしている。情報提供などを行い関係形成に努めている。また、緊急時なども本人や家族に確認を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関だけではなく、認知症専門病院との連携や協力を努めている。また、判断が難しいケアなどの相談を行い助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に看護職員が常勤しており、必要に応じて相談をしている。また、協力医療機関と密な関係を築いており、柔軟な対応を実施している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族や医療機関と良く話し合ったり、頻繁に面会に行き本人の状況の把握に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じて今後の事について、話し合い柔軟な対応ができるようにしている。また、常に本人の状況を家族の方に伝えたりして、迅速な対応に心掛けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	提供できることや難しいことについて、職員と協議しながらのケアを実施することに努めている。かかりつけ医や家族との連携にも留意をして対応をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を行ったり、家族の方などと話し合いを充分に行い対応をしている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内・外研修やミーティングなどで話し合う以外にも、日々の業務での職員の対応について、お互いに確認や助言をし合ったりしている。また、記録については関係者以外が閲覧できないようにしている。必要に応じて個人情報を公開する場合は、本人や家族の同意を得て行っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のできる事・できない事の把握を常に留意して対応をしている。また、買い物などは本人と一緒にいき、食材や食器・箸・衣類など自分で選んでもらえるように支援をしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用本位の支援に心掛けるように話し合ったり、お互いで点検するように努めている。また、何事を行うにも一人ひとりの方が納得できるように説明し、同意を得てから行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類などは本人が好む物を購入してもらったり、着用してもらっている。また、お化粧品なども希望があった時は、対応をしている。理容・美容は、家族の同意や本人の了承でホーム内でのカットを実施しているが、他の場所の希望があった場合は家族と話し合い、希望が実現できるように対応をする。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けは入居者の方とともにしている。また、四季折々の食材を使用し、楽しい話題とともに食事が楽しめるように配慮をしている。食べたい物の希望などが、いつでも言えるような雰囲気作りにも努めている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば対応をしている。喫煙に関しては、所定の場所での喫煙をお願いし、実施している。(現在は、健康上の理由などにより喫煙者はいない・飲酒に関しても、アルコール依存の方が居たり、好まれる方が居ない為、対応はしていない)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄表を活用し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導をおこなったり、排泄方法がわからなくなってしまった方に対しては、誘導だけではなく、排泄行為が再度獲得できるような声掛けや介助を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>原則入浴日は月水金曜日の午前中に行っている。入居者の方もその時間帯や曜日で納得している。また、必要に応じてシャワー浴や清拭なども実施している。(入浴自体を拒否される方にも良く説明を行い、極力入浴してもらえように対応をしている。)</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>活動を無理強いすることなく、その日の体調に合わせて休める時間を確保している。夜間なども安心できるような声掛けを心掛けている。就寝時間なども本人の希望や状況で声掛けなどの対応をしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>日常生活で役割(掃除や食器洗い・食事作りなど)を持って過ごせるように支援をしている。また、趣味なども実施できるようにしている。レクリエーション等も随時実施している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>特別な場合(完全に自己管理ができない・持つことを望まない・その他トラブルになる)以外は、所持している。また、希望があった場合は、できるだけ望みが叶えられるように対応方法を職員全員で話しあっている。本人が希望の商品の購入ができるように支援をしたり、会計もできる限り本人に行なってもらえるようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出の希望があった時は、その都度対応をしている。また、買い物や精米などに入居者の方と一緒にしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人誕生会では家族の参加を促し、希望の場所への外出を企画したり、普段の会話で出てきた場所なども行事などで行けるように企画・実施している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は希望があった場合、対応をしている。家族以外の場合は、本人の状況や家族の方に確認を取り対応をする。手紙に関しては、希望があれば応じられる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間のお願いはしているが、時間外にでも応じている。家族以外の方に関しては、家族に確認を取ったりする事もあるが応じている。居室にてお茶などを提供し、ゆっくり過ごしてもらえるように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内・外の研修参加や報告、ミーティングなどで話し合ったりして対応をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害については、常に話し合い理解を深めている。現在、日中の施錠は行わず、ケアを工夫しながら対応をしている。夕方の玄関施錠後、外に出たいという希望時は対応できるように体制を整え応じている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室の確認をする時は必ずロックをする事や、同意を得てから行なうなどプライバシーの保護に心掛けている。また、常に利用者の方の様子観察や所在は職員間で確認し合うようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや髭剃りなど、その人の状況に合わせて使用を支援している。危険と判断される場合は、見守りや介助を行い対応をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に意識し話し合いや確認をしている。また、薬の管理などは何重にもチェックし対応をしている。個々の状況の把握に努め、危険予測を行い対応策を講じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	避難訓練時、消防員を招き指導を受けたり緊急時の対応についてマニュアルを作ったり、話し合ったりしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中の避難訓練は実施しているが夜間帯は実施できていない。地域のとの協力についても十分には実施はできていない現状である。		夜間帯の避難方法の確立や地域との連携について今後、協議して行く。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの方の状況の把握を常に行うことや今後の展開についての話し合いをミーティングなどを利用し職員全体で行い、必要に応じて本人や家族の方に話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック以外にも日中・夜間の様子を申し送りなどで行い、重点的に把握できるように努めている。また、静養者用のシートを使い、対応や変化をすぐに見られるようにしている。その都度、家族や主治医との連絡を密に行い、対応をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方が飲んでいる薬剤の種類や効能・副作用などの表を事務所に置きいつでも見られるようにしてあり、必要に応じて薬剤についての説明を行っている。服用にて異常が起きているかどうかの判断は常に行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表の活用や、排泄に関しての話など日常的に行っている。便秘気味の方に関しては、水分量や活動に留意しながら声掛けを行ったり、医師に相談しながら対応をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の方は1日1回は洗浄剤に浸けるように支援をしたり、ブラッシングの一部介助を行っている。また、介助中に口腔内の観察を行うように話し、実施に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェックや、定期的に(毎食前後・10時・15時・入浴後)に水分を提供をしている。食事中も声掛け等行い、バランスよく食べてもらえるように努めている。食事介助も本人が行えることについては見守り支援を中心に行うなどの対応を行なっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策についての資料(対応等も記載されている物)をファイリングすると共に、発症傾向が強い時期になる前には普段の申し送りなどでそのことについて話しあったりしている。また、予防については、定期的な消毒などの実施を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗いなどは必ず職員が確認をし、きれいな状態で保管をしている。また、調理器具にも使用できる消毒液を使い対応をしている。食材に関しては、1週間単位で循環できるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を置いたり、日中は施錠せずいつでも出入りができるようになっている。また、暖かい日などは玄関を網戸にするなどし、開放的な状態に努めている。		構造上段差などがあるが手すりを付けたり、職員が見守り支援などを行い、転倒防止に努めている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家庭の物と同様の作りとなっているが、車椅子でも使用しやすいような高さの洗面台や、トイレの場所が分かりやすいように配色したりしている。また、気候に合わせて障子やカーテンなどを使用し対応をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に区切りのある場所を作ったり、ソファを置いたり、テーブルの配置も別々にするなどして対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好む物を家族の方に持って来てもらったり、買物で購入をしたりして対応をしている。写真を飾ったり、着物を置いたりしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝清掃時に換気を行う以外にも、職員が気になったときは換気を行ったり、消臭に努めている。ホールに温度・湿度計を置き、確認しながら温度調整が出来るようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差などの解消や手すりの設置だけでなく、本人が使いやすい位置に家具などを置いたり、ルームランプを使ってもらったりしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症状の理解について日常的に話し合ったり、日常の支援の中で個々の状態の把握に努め、予測しながら対応をしている。状態変化があったときは、迅速に職員で話し合い対応をして行く様に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇の手入れや、家庭菜園の収穫など利用者の方と共に行ったり、日向ぼっこをしたり、散歩ができるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外に出たいという方に対しては、ほとんど毎日・何回でも本人の気が済むまで一緒に歩くなどの対応をしたり、生活の中で役割を持って過ごしてもらえるように、食事作りや片付け・買い物や掃除など入居されている方と共に行い、主体的な生活が営めるように支援をしたり、「その方のできる事は行ってもらい、職員はそのサポートをする」という事に焦点を置いた介護を心掛けています。また、バランスのよい食事摂取してもらるように心掛けて声掛けをしたり、小まめに水分を提供したり、歯磨きや手洗い・うがいなどって徹底してもらったり、ホーム内でも定期的に消毒したりと、健康や衛生面にも注意をして支援を行っています。